

「江戸歌舞伎の名優」 初代松本幸四郎



▲善光寺にある初代松本幸四郎の墓石

享保元年（1716）に徳川將軍家の若君が小四郎と命名したため、名前を小四郎から幸四郎に改め、享保15年3月25日江戸で57歳の生涯を終えました。俳名を小見川、剃髪名を男女川、屋号は大和屋（初代）・高麗屋といいます。

2つの墓石

初代松本幸四郎の墓石は、東京都文京区向丘の千年山栄松院と香取市小見川の善光寺（千葉県史跡）にあります。前者には2つの墓石があり、1つには初代松本幸四郎（白髻単然直道大徳）と2人の後妻（智等院香髻淨薫法尼・繁髻栄室妙昌法尼）・2人の子ども（秋

光了童子・暁昂夢了童女）と思われる人たちの戒名が刻まれ、もう1つには先妻（英光院定誓観月信女）の戒名だけが刻まれています。後者には、小ぶりで質素な墓石が1個残されています。その表面には幸四郎（白髻単然直道大徳）と先妻（定誓観月信女）、さらに近親者（理観亮雲楚江貞道信士）の3人の戒名が刻まれています。左側面には「江戸日本橋坂本町 松本小左エ門 同 和助」、裏面に「田からいま登る浮世乃 吉悪を忌みてぞ見る 秋の夜乃月（楚江）、虫なくや砧乃あいてうしないて 未ノ秋（二馬）」、右側面には「浮草の荷作登くと 法の夢（亀列）」と連

歌が刻まれています。江戸時代には歌舞伎を上演する建物や、役者が居住する場所なども定められていました。初代松本幸四郎は主に市村座・森田座・中村座で活躍し、そのほかに化粧道具販売などの副業もしていたようです。

数々の大役を務める

元禄7年（1694）に『役者いかづち』という本に若衆方の上位から9番目に名前が掲載され、元禄9年には森田座「平親王将門」に将門役を務め大当たり。元禄12年からの数年間若立役として荒事を務め、元禄14年に市村座「持統天皇都移」の狂言で大友皇子の敵役でめきめきと頭角をあらわします。元禄16年に森田座「23番柱曆」に平親王役、寶永3年（1706）に中村座「宇治源氏弓張月」の早太役、寶永6年に市村座「出世太平記」に篠塚五郎役、正徳3年（1713）には立役の上上吉に昇進。享保2年（1717）に中村座（鉢木豊年市）で青砥左衛門役で大当たり、享保4年、森田座「傾城紫手綱」で荒岡源太役。享保8年中村座鉢木女御教書」で青砥左衛門役、同年に20年ぶりに舞台で2代目市川團十郎と対面し口上を述べます。享保11年初代市川團十郎の23回追善興行の中村座「門松四天王」に坂田公時役、享保14

年市村座「長生殿白髪金時」の白髪金時役が最後の舞台となりました。江戸歌舞伎の名優とうたわれた初代市川團十郎と初代松本幸四郎が、千葉県の出身であることは非常に興味深い事実であります。



▲善光寺を訪れ墓参りする九代目松本幸四郎

初代松本幸四郎は、延宝2年（1674）に香取市外浜の嶋田家（屋号は菱倉）に生まれ、幼名を小四郎と名乗っています。元禄元年（1688）江戸に出て、久松多四郎の門下となり、舞台初名は久松小四郎の名で

若女形を務めました。後に「松は霜雪に操を変えず、本は本心の本の字」として、松本姓にしたといわれています。正徳4年（1714）11月には、2代目を継ぐであろう長男を亡くしたために舞台を中座しています。